



# 〇〇のおうちをつくろう

## ☆自分以外の生き物との出会い☆

先日、りんご畑に出掛けてきたばんび組さん。りんご畑には、セミ、トンボ、カエル、ミミズなど、たくさんの生き物が住んでいます。スイカの下に敷いていたワラをめくると・・・ミミズやダンゴムシがうじゃうじゃ～！！びっくりした子が思わず足でダンダン！と踏んづけてしまいました。あさみ先生が「みんなと同じ、ご飯食べて、うんちもして、生きてるんだよ」とおしえてくれました。その後、カエルを数人のお友達が、同じように踏んづけていて、見ていたお友達から「先生、カエルが死にそうになってる」とヘルプの声がかかりました。見に行くと、カエルはもうびくびくと瀕死状態。わたしも思わず「どうしたの！？もう死んじゃいそうだよ。痛いってびくびく動いてるの分かる？！」と、強めに伝えてしまいました。お話しをしている間に、カエルはどんどん弱って、とうとう動かなくなってしまいました。「カエルさんもう動かなくなっちゃったね。死んじゃったら、もうご飯も食べられないし、もう元気にならないんだよ。みんなは生きてるから、ご飯を食べたり、お母さんによしよし、大丈夫だよ～ってしてもらえたら、心も体も元気になるけど、このカエルさんはもう元気にならないんだよ。」と再度伝え、帰る時間。その話を聞いていた一人は、手を合わせてお祈りをしてくれていました。もう一人は、自分が捕まえたカエルを逃がしてあげたり、それぞれ、感じたことがあったようです・・・。



ショッキングなできごとでしたが、自分の子どものころを思い出してみると・・・「アリをプールに入れてぐるぐるかき混ぜ、目が回るか実験」「トンボの羽をむしり解体」・・・今思い返すとひい～！レベルの出来事・・・お家の方も、経験ある方いませんか？(笑)

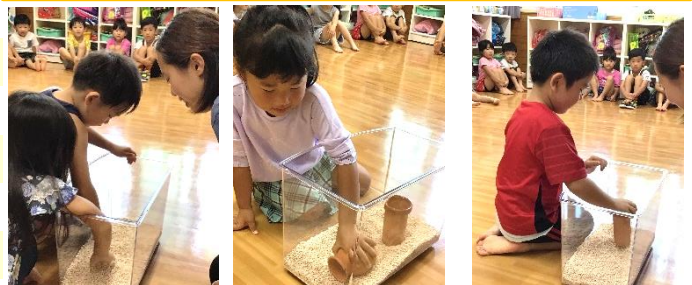
触れたことのない生き物と向き合う際、乳幼児は「怖い」と恐怖を感じ、攻撃的な行動に出ることもあります。また、踏んだり、羽をむしったりするのも、「こうしたらどうなるんだろう？」「この身体はどうなってるんだろう？」と、自分以外の生き物に興味が出てきた証拠！！(先輩保育者談♡)

でもここで大切なのは、大人の働きかけです。「成長だな、よしよし」と、そのままでは、「命の大切さ」に気が付くことは難しいですね。

「〇〇君が踏んづけられてたら、ママも先生も悲しいし、その相手をすごく怒ると思うよ。」と、「あなたは大切な存在」ということと「〇〇ちゃんより小さい虫でも、大きな動物でも大人でも、赤ちゃんでも、みんな同じ、生きてるんだよ。死んじゃうと悲しむ人が必ずいるんだよ。」ということ伝えることが大切です。死んでしまったらどうなるのか、まだまだ想像できない年齢です。それでも、「自分がされたら、自分の大好きな人がされたら・・・」と想像することは、少しずつできるようになってきています。このように繰り返し伝えていくことが大切なのです。

そこで、自分以外の命に触れる経験を・・・と、クラスである生き物を飼うことになりました。(子どもたちには何の生き物かはお話してあります♪) まずはお家作りから・・・。「隠れるばしょも作ってあげよう」「早くうちに来ないかな～♪」と楽しみにしています。

生き物を飼うには、お家を用意したり、お掃除をしたり、ご飯を用意してあげたり、病気になるないように様子を見てあげたり、みんながママ・パパにならなければいけません。もしかしたら、怖くて触れない子もいるかもしれませんが、さあ、どんな出会いになるかな～？



26日、入居予定のボクはだ～れだ！？

